

知床世界自然遺産地域 気候変動に係る順応的管理戦略の検討について

1. 戦略の策定目的

- ・知床自然遺産地域の OUV は、北半球の最も低緯度における海水形成の影響を受けた海域等の生産性の高さや、海域と陸域の生態系の複雑な相互作用に依存しているため、気候変動による影響を大きく受ける可能性がある。
- ・そのため、世界遺産委員会からも気候変動に対する戦略の策定が求められている。
- ・そこで、OUV を将来にわたり維持していくことを目的として、気候変動に対する適応策（順応的に管理を行っていくための方策）を戦略としてまとめるもの。
- ・当該戦略を遺産管理計画に位置づけた上で、戦略に基づく管理を実行していく。

2. 検討の手順

令和 5 年度

【1 月】有識者による「合同ヒアリング会議」の開催

< 確認事項 >

- ①気象データから見た気候変動の兆候や影響について
- ②気候変動シナリオ（インパクトチェーン）について
- ③気候変動影響のリスクの評価について
- ④具体的かつ実行可能な適応策のリストアップ（一次案）について

【2 月】第 2 回科学委員会にて進捗や次年度の検討の進め方を報告

令和 6 年度（予定）

【4～7 月】事務局にて「気候変動に係る順応的管理戦略（案）」を作成

科学委員会下部WG/APにおいて以下を確認

- ・気候変動シナリオ（インパクトチェーン）
- ・長期モニタリング計画との整合性
- ・適応策

【9 月】第 2 回科学委員会において以下を確認

- ・気候変動に係る順応的管理戦略（案）

【9～11 月】戦略の確定

【12 月】保全状況報告に合わせて、世界遺産センターへ提出

【参考】有識者から助言を得るための合同ヒアリング会議の開催

<日程> 令和6年1月16日(火)

<方式> オンライン方式

<議事>

- (1) 気象データから見た気候変動の兆候や影響について
- (2) 気候変動シナリオ(インパクトチェーン)について
- (3) 気候変動影響のリスクの評価について
- (4) 具体的かつ実行可能な適応策のリストアップ(一次案)について

<出席の専門家>

氏名(敬称略)	所属等	主たる助言分野
工藤 岳	北海道大学大学院 地球環境科学研究所 准教授	・ <u>陸域</u> (特に植生)
荒木 仁志	北海道大学大学院 農学研究所 教授	・ <u>陸域と海域のつながり</u> (特に河川の魚類)
綿貫 豊	北海道大学大学院 水産科学研究所 教授	・ <u>陸域と海域のつながり</u> (特に鳥類)
山村 織生	北海道大学大学院 水産科学研究所 准教授	・ <u>海域</u> (特に魚類、鰭脚類)
仲岡 雅裕	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 厚岸臨海実験所 教授	・ <u>海域</u> (特に沿岸の水生生物)